

スキーオリエンテーリング天国！

前回のオリエンテーリングマガジンで報じたように、スキーオリエンテーリングのジュニア世界選手権、ベテラン世界選手権がイタリアで行われた。今回はこれに日本から参加した人たちの声を集めてみました。

SKI-O JWOC2001

日本初参加

東北大 OLC 堀江守弘

日本ではまだほとんど知られていませんが、スキーオリエンテーリングにも JWOC(ジュニア世界選手権大会)があります。僕は今回、日本で初めてのSKI-O JWOC選手としてイタリアはアルプスの麓、FOLGARIAに行ってきました。FOLGARIAと言っても知っている人はほとんどいないでしょうから、簡単に説明しますと、なんとすべてが「最高!!!」なところなんです。これ以上は言葉では言い表せません。是非皆さん一度行ってFOLGARIAを感じてください。

さてさて、競技のほうはといいますと、わが日本選手団の中から入賞者が二人も出ました。ご存知の通り植野さんと武石さんです。二人は、世界中の強豪が集まったこの大きな大会で、表彰台にまで上り詰めたのですからほんとすごいものです。

また、他の選手もそれぞれのベストパフォーマンスに一歩でも近づくように、精一杯滑り続けました。僕個人は、SKI-Oを初めて二ヶ月とまだまだ未熟でありましたが何とかビリは逃れることが出来ました。来年は僕の記録を超える若者が多数現れることを期待しています。

この大会ではさまざまなことを学びました。その中で最も心に残っていることは、「SKI-Oの魅力」です。SKI-OはFOOT-Oにも勝る魅力を持っています。いまこのオ

ーマガジンを読んでいるあなた！そう、あなたです。あなたは、FOOT-Oの魅力に取り付かれ、勉強や仕事で忙しいながらも、オリエンテーリングのことが忘れられず、今日もおオーマガジンを手にかけているのだと思います。そんなあなたでしたら、SKI-Oを一度やってみればきっと分かるでしょう。「SKI-Oの魅力」とは何か。

今年の冬、SKI-Oの会場であなたと会えることを楽しみにして、雑ではありますが僕のSKI-O参加記を終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

SKI-O WMOC に参加して

三澤儀男(日立工機OLC)

昨年の秋にWMOCの誘いのあったころ、言葉の問題やSKI-Oのレベル等の不安がありましたが、武石さんから「オリエンテーリング大会のみですが、英会話(その他の外国語も)私はまったく出来ませんが、大胆にも海外一人旅をしています。レベル？スキーを楽しむことを主眼に参加しています。マスターズは、その年齢クラスのレベルを確認できますので、今後、日本からの参加者に目標とさせることが出来るのでとっても楽しみです。」と、ざっとこのような内容のメールを頂き思い切って参加する事に致しました。

今、振り返ってみますと、言葉の問題では、ずいぶん堀江さんに

お世話になりましたが、自分のレベルが確認でき、参加して本当に良かったと思っています。さて、レース内容は相変わらずフットもスキーも同じで、地図読みが良く出来ていませんでした。最初のショートディスタンスの地図読み間違いによるロスタイムは、約5分でこのロスタイムを解決できれば一桁の順位になるかと思うと、少し自信もできてリレーとクラシカルはリラックスしていたように思います。また、今までの自分の滑りと違っていたことのひとつにワックスがありました。イタリアは、暖冬のため湿度の高い雪でしたが、植野さんにいろいろとご指導いただきワックスの違い、重要性を感じさせられました。来シーズンはワックスにもこだわってみたいと思っています。

レース以外のことですが、マーチングバンドを先頭にホルガリア街を、開会式会場までパレードし、「ジャポーネ！ジャポーネ！」と歓迎の声援を受けた事、表彰式で遠い国の参加国として会場に流れた「君が代」や優勝チームの若者が演奏に合わせ国歌を歌う姿等に感動させられました。また、ヴェローナの街を観光できた事など数多い貴重な生きた体験をすることが出来ました。今回の遠征を計画準備して戴いた方々と、一緒に参加した方々に心から感謝しております。

WMOC 2001 に参加して

千葉市 瀧本正一郎

今回、初めて海外 SKI-O 大会に参加し、とても楽しむことが出来ました。レースに関しては、まず、どんな場所で行われるのかワクワクしました。今回使用された場所は、スキー場の中にある XC スキーコースを利用したもので、モデルイベントを含めると3ヶ所で行われました。コースの状況は、スノーモービル道は、キャタピラが二つあるタイプで日本のものより幅があり、そしてスキートラックやショートカットは全体的に雪が締まっているため(降ってから相当日数が経っている感じ)、ストックも沈むことなく、それぞれ滑り易かったです。しかし、積雪量が少なかったため、林の中のスキートラックの一部は、地面が露出しているところもありました。裏磐梯高原で慣れている私にとってはアップダウンの勾配がきつく、急斜面のスキートラックでは何度も転び、終わりの頃は、スキーを脱いで下っていました。

自分の記録は悲惨なもので、もっと上りや下りの練習が必要だと実感しましたが、ショートディスタンスで日本人二人が表彰台に立ったことは嬉しいことでした。また、ジュニア選手権を肉眼で見ることができ、SKI-O の選手の多さにビックリし、各国における取り組みの凄さに圧倒されました。この中から、これからの世界選手権に参加していく選手がいるのかと思うと、見てワクワクしました。

また、マスターズでは、最高齢は

80 歳というのも驚きでした。こういった高齢でも楽しめる SKI-O は、生涯スポーツとしてこれから充実していくことでしょう。

宿泊地は大会会場から少し離れたフォルガリアという町。ホテルの食事は、バツグンで地ワインとともにおいしく戴きました。朝食は軽いものですが、夕食は、前菜およびメインを数種類の中から一つずつ選びます。これが厄介で、メニューの単語を見ても料理が頭に浮かばないのです。みなチキン、パスタといった単語の一部を元を選び、出された料理を見ては、喜んだり、がっかりきたりと楽しみました。そんなメニューの仲でみんなの注目を浴びたのが2品目。1つは数種類のチーズだけの「ミックスチーズ」。メインがチーズだけと言うのは日本では見たことがありません。もう一つが料理名に「冷えた皿」と書かれたハムの盛り合わせ。あっさりしていて食べ過ぎにはちょうどいいメニューでした。前菜に出た毎日違うパスタは、どれも口に合い美味しかったです。

ショッピングに関しては、この地域だけかもしれませんが、正午から夕方 4 時過ぎまでお店は休みで、何も買えません。日中、街を歩いてもほとんど人は見かけない状態。それが4時を過ぎると、買い物客で賑やかになります。私は、ホテルで飲んだ美味しい赤ワインをお店で買いましたが、1本600円程度。物価の違いもありますが、あまりの安さにビックリ。交通機関に関しては、イタリアはのんびりした国のようでした。ホテルから会場まで毎日バス移動

でしたが、これがなかなか来なかったり、また来ても満員で乗れなかったりしました。満員の時、ドライバーが別のバスが10分で来ると言いましたが、実際は30分くらい経ってくるありさま。これがイタリア時間だとみな納得していました。さらに驚いたのが帰りの電車。前夜から鉄道がストライキ中だったのですが、知ったのは駅に行ってから。ホテルでも駅まで乗ったバスでも教えてくれませんでした。誰も気にしていないよう。

一日休養日があり、日本チームは、車で1時間くらいのヴェローナの町に観光に行きました。シェークスピアの名作「ロメオとジュリエット」の舞台になったと言われるそれぞれの家を見たり、ローマ時代の円形劇場「アレナ」の大きさに感動したり、地底に埋まっている古代ローマの土台が一部掘り起こされて見れたことなど、ガイドに案内されながらこの街の歴史を見聞きし、ここに住んでいる人々の長い歴史を実感できました。滞在中の天気は、連日晴れ渡り、気温も日中は15度くらいのときもあり、ボカボカ陽気でした。

まだまだ書きたいことは、いろいろありますが、レースのみならず、いろいろな面において充実した日々を過ごしました。最後に通訳で活躍した堀江君、ワクシングのアドバイスしてくれた植野コーチ、取りまとめの武石さん、いろいろサポートしてくれた他の選手の皆さんに感謝します。

Ski-O WOC2002 一部選手指定：植野由香、酒井佳子、元木 悟、丸山哲史。選手の残り枠は、男女各4名。SKI-O 研究会では、最終選考大会を平成14年1月12日～14日に予定しています。(場所等は後日)

2002 年 SKI—O 世界選手権大会

1. WOC (世界選手権) 時期 2月下旬～3月、開催国ブルガリア
2. JWOC&WMOC (ジュニア世界選手権・マスターズ世界選手権) 時期 1月28日～2月3日、開催国チェコ